

のもとよしみ通信

NO. 12

2010年1月



事務所 〒229-0202 相模原市藤野町沢井1215 Te& Fax 042-687-5119

E-mail ki-ki-nonohana@nifty.com

<http://homepage2.nifty.com/nomotoyoshimi>

赤ちゃんからお年寄りまで
いきいきと暮らせるまちに

新年明けましておめでとうございます



去年は政権交代
が実現し、天下りや
官僚政治、ムダな
公共事業に、ようや
くメスが入りました。
わたしたち国民に
は見えなかった政
治の舞台裏が、見
えやすくなった点は

評価できるのではないのでしょうか。

しかし、財政再建や年金医療問題、少子高齢化対策、経済成長戦略、環境問題、国際社会における日本の役割と外交など、本格的な政権運営はこれから。長期政権が残したツケは、簡単には清算できないでしょうが、現政権には、国民への説明をしっかりと行ないながら、安心と希望の持てる社会の実現を期待したいものです。

相模原市の政令市移行まで、3ヶ月をきりました。心配していた通り、不況の影響は大きく、市税の落ち込みによる大幅な減収(2ページ参照)と政令市関連の歳出の増が重なり、来年度予算は大変厳しいものとなります。

政令市・相模原の独自性をどこに見出し、その存在をアピールしていくのか、得られる権限を活用し、市民の満足度をどう高めていくのか、限られた予算だからこそ、効果的な使い道を考えていく必要があります。

のもとよしみは、ピンチをチャンスにして未来を切り拓くため、社会情勢を踏まえつつ、長期的な視点をもって、市政を厳しくチェックし、市民のみならずとともに魅力ある相模原市づくりに取り組みます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

相模原市議会議員 野元好美

新春のつどいのご案内

里山つぐいの新たな未来！

～わたしがここの暮らしを選んだ理由～

今回は市政報告だけでなく、津久井地域に移り住んだ若い世代をお招きして、この地域を選んだ理由や現在の暮らし、これからの夢などを語っていただきます。

里山つぐいの魅力や相模原市の新たな可能性について語り合いましょう。お待ちしております。

記

日時：1月3日(日)午後2時～4時30分

場所：相模湖交流センター研修室

＊参加費 500円 茶菓子代)

3月議会の日程

2月19日(金)本会議 提案説明)

3月1日(月)、2日(火)本会議 代表質問)

3月4日(水)～10日(水)各常任委員会

19日(金)～24日(水)本会議(一般質問)

25日(水)本会議

＊のもとは、一般質問を行います。



かわいくなってきたかな？
藤野町名倉地区
のびのびクラブにて



実施計画策定の見送りと政令市移行について

■ 社会情勢にあわせた柔軟な対応を

相模原市の新総合計画は、政令市への移行に合わせたため、今年4月にスタートします。総合計画には、20年後のめざすべき市の将来像が示されており、その実現に必要な重点プロジェクトや具体的な事業は、基本計画(10年間)や実施計画(5年間)に定めます。ところが、市は、経済不況と政権交代を理由に22年度の実施計画策定を見送ると発表(昨年11/5に各紙報道)。

のもとは、財政が厳しく、流動的な政治状況だからこそ、従来の計画期間にとらわれない実施計画が必要であり、政令市移行後2年間の目標を、市民と職員に公表するよう市長に求めました。市は、実施計画は、一定期間の財政的な見通しがたつようになったら検討していきたいとの答弁で、社会情勢に合わせた柔軟な市政運営は、加山市政には望めないと痛感しました。

■ 新潟市は政令市を機に利便度アップ

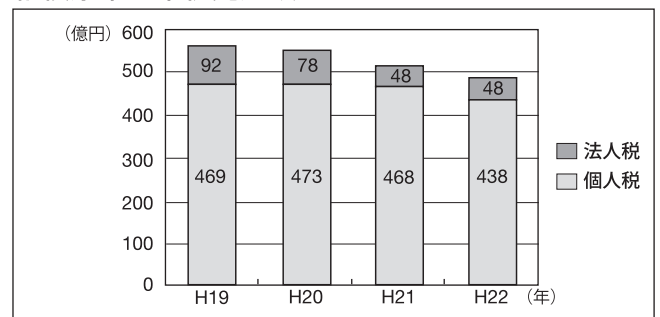
07年に政令市になった新潟市。政令市移行を市民サービス向上の絶好の機会と捉え、戦略プランをたてて取り組んだ結果、全国市区の行政サービス調査(日本経済新聞社)の行政革新度部門で、06年の34位から08年には4位に大躍進(政令市ではトップ。ちなみに相模原市は全国

68位)。現在も新しい戦略プランを立て、市民満足度をさらに高めるための改革を進めています。

■ 全職員が共有できる計画を

本市では、ここ数年、職員のミスや不祥事の件数、メンタル疾患が急増。今年4月には、区役所や土木事務所、児童相談所などの設置で大きく体制が変わり、また、国との直接交渉など、職員にはこれまで以上に判断力、政策提言能力などが求められます。問題が起きるリスクはさらに高まります。全職員が目標や基本的な考え方を共有し、計画的に仕事を行なうためにも実施計画を作るべきです。また、職員を管理するのではなく、果敢に仕事に励めるような環境を整えるべきと市長に要請しましたが、市長自らの答弁はありませんでした。羅針盤も持たない政令市移行でいいのでしょうか。

相模原市 市税見込額



注: H19～H20は決算額、H21～H22は見込額

環境共生都市にふさわしい残土条例の制定を

藤野町牧野(篠原)では、県がかつて許可した残土処分場に、昨年4月ごろから、10トンのダンプカーが1日に40～50台も往来。住民が生活道路として使っている狭隘な県道を、通勤、通学時間も通行し、交通整理員もいないため、市民生活に支障をきたしています。救急車両の妨げになるという心配の声も。

また、谷あいの残土処分場は、土砂の流出や廃棄物混入などによる河川への汚染など、二次災害も懸念されます。全国には二次災害が起きて業者の所在がわからず、多額の税金で対応する事例も起きています。

現状では、市は県に指導をお願いするしかないといいますが、県条例では十分な指導ができず、問題は解決していません。

そこで、市の責任において、事前協議を義務づけ、許可後も機動的な監視指導体制をとれるようにするなど、水源地域を含む環境共生都市にふさわしい市の条例を定めるよう求めました。市は、現在の盛土条例を総合的な条例となるよう見直し、時期も含め、改正を検討していきたいとのことでした。

4月からは県の津久井土木事務所もなくなります。早期の改正を重ねて要請しました。

動物の愛護行政の着実な推進を

動物の愛護及び管理に関する条例」は、政令市に必須ではなく、5市は県条例のまま。条例案は、市の独自性や積極的な姿勢は読み取れず、パブリックコメントでは 県条例の水準より低下する」と不安の声が。

のもととは、県条例との違い、市の課題と解決策、条例制定後の推進体制や拠点となる動物愛護センター設置の考え方などを質しました。

市は、本市の課題は横浜市、川崎市と大きな相違はない、条例制定後も県の動物保護センター（平塚市）に引き取り等を委託すると回答。

横須賀市は中核市ですが、昨年5月、市で動物愛護センターを設置し、この問題に積極的に取り組んでいます。児童相談所も設置しています。

その他の代表質問

- 市の財政状況と来年度予算編成方針について
- 市民の暮らしをどう理解しているのか
- 政令市移行関連（ビジョン、財政推計の見直し、都市内分権、職員体制、民生委員事務の社協委託、区民会議とまちづくり会議など）
- 行政委員会委員の報酬の見直し
- 障害者扶養共済制度条例について
- 消費生活条例について
- 産業集積促進基金、生活保護費について 等

この違いは何か。市の課題に真摯に向き合い、解決しようとする姿勢ではないでしょうか。

市内には、犬・猫の不妊・去勢手術をすすめたり、保健所での殺処分を減らすために飼い主を探したりするなど、献身的にボランティア活動が続けているみなさんがいらっしゃいます。その中から、条例案見直しの陳情が出されました。

市民協働を掲げながら、良きパートナーとなるべき市民団体と十分な意見交換もせず、条例を制定するのは問題です。市民とともに本市にふさわしい条例を考え、動物愛護行政を推進すべきと考え、条例に反対しました。



環境経済委員会 農業委員会の統合について

3月から、旧市域と津久井地域の農業委員会が統合され、委員数は39人から30人に減り、3選挙区に分けて委員の選出が行なわれることになりました。一方、昨年12月から、農地法が改正され、遊休農地の是正など新たな仕事加わります。旧市の遊休農地の面積は20ha 津久井4町は132ha

のもととは、統合後の農業委員会のあり方について、法改正や地域の実態を踏まえた対応が可能なのか質しました。

環境経済委員会視察 北九州市・福岡市（2009/10/14～15）

08年度、国の環境モデル都市に選ばれた北九州市を視察。長い取り組みの歴史があること、環境局だけでなく全庁的な推進体制であること

（07年度の環境首都予算は約122億円。総事業数は213事業）、行政だけでなく市民やNPO、産業界、学術機関など地域が一体となって進めていることなどがわかりました。日本の環境首都コンテストで2年連続総合第1位（06、07年）、世界の環境首都」として高く評価されるのも頷けます。

北九州市がめざすのは、①豊かさを1世代で享受しないで世代を超えて蓄積する「ストック型社会」、②経済発展との両立、産業基盤を活

かした「低炭素社会」、③少子高齢化に対応した社会」、④アジアの持続的発展を支える「環境国際協力」。日本最悪の公害を克服し、灰色の街から緑の街へ発展を遂げた経験を生かし、持続可能な社会づくりの人材育成（ESD）やアジア圏の低炭素化まで視野に入れた、壮大かつ堅実な計画に大いに刺激を受けました。

本市の「環境共生都市」の取り組みは、始まったばかりです。



相模湖町内郷地区で、乗り合いタクシーの実証運行が始まりました(昨年10/1から)。ワゴン型タクシーの運行で、停留所や時刻表、運行経路などは地域住民と事業者、および市の3者で話し合って決まりました。運賃は大人300円、小学生と障害のある方が100円、往復の利用で帰りは100円に。今年度の利用状況をふまえ、導入や運行継続の基準などを決めていきます。

また、橋本駅～相模川自然の村では、今年1月からコミュニティバスが本格運行に。車内の絵画・写真展、絵手紙の展示やのぼり旗の作成など、地域のみなさんが利用促進策を工夫され、

1便あたり10人以上などの運行継続基準をクリア。他の交通不便地域への拡大を期待します。



乗合タクシー 相模湖町内郷)

あれこれ

リニア駅建設に2200億円！？

JR東海は、リニア中央新幹線の中間駅について、神奈川県は地下駅で、建設費は2200億円と発表し、費用は地元負担」と改めて表明(2009/12/11)。

県知事は、費用については、昨年9月、県ではとても賄いきれない。沿線都道府県との綿密な情報交換や地元・相模原市の意見を伺いながら合意形成に取り組む」と発言。地方空港の二の舞にならないよう、慎重な対応が必要ではないでしょうか。



小規模水道水源
現地調査立会い
(藤野町大川原地区)

映画「いのちの山河」のご案内

わが国有数の豪雪地帯で、多病と貧困に苦しむ岩手県沢内村で、老人・乳児医療費の無料化、全国初の乳児死亡率ゼロを達成した深沢晟雄村長の生涯を映画化。ぜひご覧ください。

日時：1月29日(金) 14:30～/19:00～

場所 杜のホールはしもと

料金：大人 前売1200円 当日1500円)

問い合わせ：上映実行委員会 042-778-1655

みんな笑顔が一番！ ～地域福祉のあり方～

4町の社会福祉協議会の事業が合併後、変わりつつあります。藤野町のびのびクラブは、社協への委託事業として、専門の指導員とボランティアにより運営され、高齢者の見守りや介護予防の拠点となっていました。合併後、職員が3人から1人となり、2年度からは、地区社協の事業として、ボランティアによる運営に。送迎もなくなり、登録者数も減少。

また、相模湖町のふれあいデースサービスと藤野町のいきがいデースサービスは、社協への委託事業から、病院や施設での介護予防事業に変わり、ボランティアの関わりがなくなりました。

地域福祉は、市内一律ではなく、それぞれの地域で工夫し、誰もが笑顔で暮らせるようなあり方が良いのではないのでしょうか。

相模湖ふるさとまつり(11/8)



相模湖交流センター、リフレッシュセンター、千木良公民館の3会場を訪ね、地域のみなさんのステージ発表や展示作品を拝見しました。また、お抹茶や内郷村の伝統食を堪能しました。